例会：『ロシア紅茶の謎』

１－有栖川有栖（作家アリスシリーズ）について

作家紹介、学生アリスシリーズについては割愛。

1992 年（双頭の刊行年と同じ）、長編『46 番目の密室』を始めとし、短・中・長編計 20 作品を超えるシリーズ。

探偵役は英都大学社会学部犯罪社会学助教授、火村英生（初登場時 32 歳）、ワトソン役は専業推理作家の有栖川有栖（火村と同い年）が務める。

作品の中にはエラリー・クイーンに倣いタイトルに国名を冠したものがあり、まとめて「国名シリーズ」と称される。今回例題の課題本『ロシア紅茶の謎』は国名シリーズの第一作目である。

以下作品群↓

長編：・46 番目の密室（'92）　・ダリの繭（'93）　・海のある奈良に死す（'95）
　　・朱色の研究（'97）　・乱鴉の島（'06）　・鍵の掛かった男（'15）

中編：・白い兎が逃げる（'03）　・妃は船を沈める（'08）　・長い廊下がある家（'10）
　　・高原のフーダニット（'12）　・菩提樹荘の殺人（'13）

短編：・暗い宿（'01）　・絶叫城殺人事件（'01）　・火村英生に捧げる犯罪（'08）
　　・怪しい店（'14）

国名シリーズ：・ロシア紅茶の謎（'94、短編集）　・スウェーデン館の謎（'95、長編）
　　・ブラジル蝶の謎（'96、短編集）　・英国庭園の謎（'97、短編集）
　　・ペルシャ猫の謎（'99、短編集）　・マレー鉄道の謎（'02、長編）
　　・スイス時計の謎（'03、中編集）　・モロッコ水晶の謎（'05、中編集）

２－登場人物について

探偵役―火村英生

京都の私大英都大学社会学部で犯罪社会学を専攻している助教授。札幌生まれで標準語を話す。若白髪。現場では黒い手袋を着用。無神論者。キャメルとボロボロのベンツを愛用。実写ドラマでは斎藤工。

ワトソン役―有栖川有栖

大阪在住の専業推理作家。脱サラ作家。「学生アリスシリーズ」を執筆しているという設定だがおそらくフィクション。助手兼間違った推理をする役回り。2 人して様々な事件現場にお呼ばれしていく。愛車はポンコツのブルーバード。実写ドラマでは窪田正孝

その他各都道府県警察の方々―大阪府警・兵庫県警・京都府警など

３－本編『ロシア紅茶の謎』

「動物園の暗号」…

・ダイイングメッセージもの。

・容疑者全員にアリバイなし、暗号を解くと分かる

「屋根裏の散歩者」…

・ダイイングメッセージもの？

・推理というより乱歩的小説

「赤い稲妻」…

・密室もの。密室を破るトリックが良い。

・アリバイ破りもあり。

「ルーンの導き」…

・ダイイングメッセージもの。

・トリックは水ものの一種

「ロシア紅茶の謎」…

・表題作。消えた凶器。

・一ひねり加えられていて斬新

「八角形の罠」…

・読者への挑戦あり。

・動機のある容疑者たちから犯人を絞り込めるアイテムは比較的容易に気づける？

・八角館の殺人

４－最後に

・学生アリスと異なり、比較的時間の自由がきく二人組であることから幅のあるトリックを使える強み

・短編集でありながらトリックの練りこみは高め

・この後の国名シリーズは長編あり、日ミスあり、やや問題作ありで面白いので興味を持たれたら是非。